



イベント・シンポジウム等実績報告書

配分事業費:205千円

スティーブ・ジョブズのMacintosh展

目的・趣旨	Jobs没後14年を経て、彼のビジョンが見えにくくなった。 命日10月5日を迎えるに当たり、彼が開発した当時のMacの実機を25台程度展示し、デザインと開発の背景とを照らし合わせ、Jobsが描いた未来を考察する。
日時・場所	令和7年10月18日～10月28日 静岡文化芸術大学 西ギャラリー
体制	(実施代表者)デザイン学部 デザイン学科 教授 羽田 隆志
共催・後援等	(後援)浜松市

内容

スティーブ・ジョブズのApple社に関係した活動を4期に分けその年代ごとの実機を展示した。書籍やインタビュー記事からジョブズが抱いていたビジョンを取り出しパネル展示した。
4つの期における転換と、逆に一貫して「芸術表現の道具を作る」という理想を追い続けていたと知ることにより商品企画とスタイリングを学ぶことがこのイベントの目的である。
またジョブズが芸術・彫刻などにも強い興味を持っていたことを表すためサモトラケのNIKE像(レプリカ)を展示した。単なる電気製品の展示ではなく芸術的な意味の展示であることを来客も感じ取ってくれた。



結果・成果

ジョブズはパソコンに興味があり、パソコンを生産することによって大きな利益を得ることを目的としていたと思い込んでいる人が少なくない。これはマスコミが誤った報道を繰り返していたためであるが、その根源には商品企画とは「商品そのもの」の生産作業だとの誤解がある。
この展示ではジョブズが商品そのもの、特にデザイン(スタイリング)に拘っていたもののそれは表面的な要素ではなく、ユーザーに与える印象を重視してその表現としてのスタイリングに拘ったのだということを理解すると同時に、根底にある判断根拠となった「ユーザーに与える印象」をどのようにジョブズが掴んだのか、インタビューでも語らなかったことを垣間見ることができたと思われる。来客からもジョブズは今までの印象とまったく違っていたという声が多数寄せられた。
また学外者が非常に多かったため、本学はデザインを、表面的なお絵描き・物作りとは異なった見方で見ていることを訴求できたと思われる。

